

第3回慰霊塔(碑)のあり方検討協議会 議事要旨

<開催>

日時:平成25年10月28日(月)13:30~16:30頃

場所:糸満市内に建立されている複数の慰霊塔現場視察

(①白梅之塔、②南北之塔、③沖縄工業健児之塔、④沖縄師範健児之塔)

※沖縄県庁1階ロビー及び糸満市役所1階ロビー集合

<出席者>

No	団体名	職名等	氏名	備考
1	沖縄県 福祉保健部	福祉企画 統括監	金城 武	会長
2	一般財団法人 沖縄県遺族連合会	理事	宮城 篤正	
3	公益財団法人 沖縄県平和祈念財団	事務局長	上原 兼治	
4	公益財団法人 沖縄県平和祈念財団	理事	大城 藤六	
5	沖縄県立第二高等女学校 白梅同窓会	会長	中山 きく	
6	沖縄県立沖縄工業高等学校 同窓会	会長	島袋 光尋	
7	(糸満市)真栄平自治会	区長	仲吉 勇	
8	一般社団法人 うちなーサホーとうーとーとー沖縄	代表理事	仲田 英安	
9	糸満市	社会福祉課長	稲嶺 盛和	
10	浦添市	福祉総務課長	與古田 達郎	
11	与那原町	住民課長	青田 治夫	
12	沖縄県環境生活部	平和・男女共同 参画課長	山城 貴子	
13	沖縄県福祉保健部	福祉・援護課長	伊川 秀樹	

1 白梅之塔

所在地	糸満市真栄里
建立年月日	昭和22年1月(平成4年改修)
設置管理者	沖縄県立第二高等女学校 白梅同窓会
清掃管理	公益財団法人沖縄県平和祈念財団



説明者: 中山きく委員(沖縄県立第二高等女学校 白梅同窓会会長)

- ・ 白梅之塔の1キロぐらい西側にバクナー中将の慰霊碑がある。
- ・ この場所は、沖縄戦後期にバクナー中将の死をきっかけとして米軍からの報復攻撃の場となり、激戦地となった。
- ・ その後、すぐ近くにあるガマの存在がわかって、金城先生が昭和22年ごろに小さな石による慰霊碑をつくった。
- ・ 当初、納骨堂には177柱の遺骨が納められていたが、国立の戦没者墓苑に転骨するよう県から勧められたので、大部分は転骨したが、塔の納骨堂にも一部の遺骨を残してある。
- ・ 毎年6月23日の慰霊之日には、同窓会が主催となって慰霊祭を開催しており、毎回高校生など若い

方にも参列していただいている。

- ・ 特に、沖縄尚学高校や広島経済大学の学生には協力してもらっており、この2校は私達の意志を引き継いでくれると思っている。
- ・ 塔の清掃管理は平和祈念財団に委託契約しており、立派に清掃していただいていることに感謝している。
- ・ 塔の側には名刺受を設置している。訪問者の名刺が入っていた場合は必ず返事をして交流するように心がけている。
- ・ 今後のことには不安もあるが、今出来ることをがんばっていきたいと考えている。
- ・ 慰霊塔の管理にかかる資金の確保は、基本的に遺族と同窓生から集めている。
- ・ また、秋田県の東北醤油株式会社の方が旅行で沖縄を訪れた際に白梅之塔について関心を持っていただいて以来、毎年10万円の寄付をいただいております、非常に感謝している。

2 南北之塔

所在地 糸満市真栄平
建立年月日 昭和21年6月
設置管理者 真栄平自治会
清掃管理 真栄平自治会



説明者：大城藤六氏（公益財団法人沖縄県平和祈念財団理事、真栄平地区出身）

- ・ 糸満市真栄平は、南部の中でも有数の激戦地であり、地域の住民も多く方が犠牲となった。
- ・ 戦後は、この地域の至る所に戦没者の遺骨が散在していたため、住民の手によって一箇所に集められた。
- ・ 遺骨を集めた場所が現在の南北之塔の場所であり、塔の下部にある四角い箱型のコンクリートが納骨堂となっている。
- ・ この納骨堂には、当初、北海道のアイヌの犠牲者も30数柱が納められており、北海道から沖縄の住民が祀られていることから、北から南の戦没者を慰霊するために「南北之塔」として、納骨堂の上に塔を建てて現在に至っている。

- ・ 昭和40年ごろには那覇市識名に戦没者遺骨の納骨堂が建立されたこともあり、遺骨は転骨した。
- ・ また、この地域で県外から来た多くの兵士が戦死したことから、県外の遺族の方が市や区に無断で南北之塔の周辺に約20の個人の碑が建立している。この対応に苦慮している。
- ・ 区としては、他人が建立された碑までは管理ができないので、数年前から、設置した方に対して無断で建立された塔(碑)の撤去をするよう看板を立てて促しているが、一向に変化がない状況にある。
- ・ 国や県の方で無縁化している慰霊塔(碑)を整理集約できるのであれば、ぜひこれらの碑も移転していただきたい。
- ・ 南北之塔周辺の土地は真栄平の字有地であり、不法占有にあたるのではないかと考えている。法律的に移転できないか検討していただきたい。

3 沖縄工業健児之塔

所在地 糸満市摩文仁(平和祈念公園内)
建立年月日 昭和33年5月(平成5年11月改修)
設置管理者 沖縄県立工業高等学校同窓会
清掃管理 沖縄県立工業高等学校同窓会



説明者: 島袋光尋 委員(沖縄県立沖縄工業高等学校同窓会 会長)

- ・ この塔の海側に沖縄工業学徒隊の最後の壕がある。
- ・ この壕では、沖縄工業学徒隊が通信隊として立てこもり、最後の出撃に出た壕であり、慰霊塔を建立するのであればこの壕の近くに立てるべきとの結論になり、この場所になった。
- ・ この慰霊塔の後方には7本の柱が建っており、この柱が1本の大貫(おおぬき)によって貫かれていることから、7人の仲間ががっちりスクラムを組んで団結していることをイメージしている。
- ・ 以前は、現在のようにコンクリートが整備されてなく、雑草がよく生えるため、管理も大変だったが、土間のコンクリート整備を行い、管理も容易になってきた。
- ・ また、先輩方からは、海側の壕の調査がなされていないと指摘があったことから、できる限り壕の調査

も行いたいと考えている。

- ・ 慰霊塔の修繕費や管理費については、同窓会から予算を出して捻出している。
- ・ 慰霊祭については、以前は毎年6月23日に同窓会及び遺族が中心となって開催していたが、現在は式典形式を取りやめて、参加者が慰霊の日の当日、それぞれ好きな時間帯に来て個々に慰霊する方式に切り替えている。

4 沖縄師範健児之塔

所在地 糸満市摩文仁
建立年月日 昭和21年3月
設置管理者 沖縄師範健児之塔遺族会
清掃管理 公益財団法人沖縄県平和祈念財団



説明者 仲田英安(一般社団法人うちーサポート うーとーとおきなわ 代表理事)

- ・ 師範健児は、こともと魂魄之塔に合祀されていたが、有志の寄付などによってこの塔が建立された。
- ・ この塔に参拝するためには、この近くの駐車場は個人有地になっており、さらに駐車場から塔までの遊歩道は糸満市の施設となっている。
- ・ これらの権利問題も時間の経過とともに権利者や管理者がわからない状況になっていたため、私が数年前に調査したところなんとか確認することができた。
- ・ しかしながら、今後長い目で見た場合、塔や塔の周辺を修繕する必要性が生じた際に所有者や管理者を確認することに大きな労力と時間を費やすことになることを懸念している。
- ・ 塔の建立当時の関係者はほとんど亡くなっており、現在は有志による寄付等によりまかっている。
- ・ また、毎年6月23日には、我々や遺族、また協力者等と一緒に慰霊祭を開催している。

- ・ この師範健児之塔の周辺にも遺族の方が9つほど個人の石碑を建立しており、これらの碑の今後の管理や対応を懸念している。